

東京湾再生官民連携フォーラム 平成 30 年度 第4回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 31 年 3 月 28 日 (木) 16 : 00 ~ 18 : 00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門 虎ノ門 SQUARE 店
東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) フォーラム平成 31 年度事業計画 (案)、予算 (案) について

《報告事項》

- (1) フォーラム平成 30 年度事業報告 (案) について (事務局)
- (2) P T 2019 未来クロス会議の実施について
- (3) 平成 30 年度 P T 活動報告、平成 31 年度 P T 活動計画 (各 P T 長)
- (4) その他

4. 出席者 (敬称略)

來生委員長、佐々木委員、古川委員、岡田委員、木賊委員、星委員、斉藤委員、工藤委員、鈴木委員、田久保委員、木村委員、竹口委員、田中代理、芝原委員、伊勢代理、成川代理、山本委員、富樫代理、市原代理、羽田委員、稲津代理、田代理、鹿志村委員、岩田代理、木下委員、夏目委員、細川 (事務局)
27 名出席

5. 議事メモ

5-1 開会

(1) 事務局確認事項

出席委員の確認、配布資料の確認

(2) 開会挨拶 (委員長)

平成 31 年度事業計画の審議をお願いする。

5-2 議事

《審議事項》

- (1) フォーラム平成 31 年度事業計画 (案)、予算 (案) について

【決定事項】

中長期計画・平成 31 年度事業計画 (案)、予算 (案) は承認された。

【審議説明】

(事務局) 資料 1、参考資料 1~4 を用いて説明

平成 25 年度からこれまでの 6 年間は、政策提案、大感謝祭を中心に実施してきた。今後社会的な醸成

をより高めることが課題である。平成 31 年度から 3 年間の事業計画については、東京湾流域に住んでいる方を対象に、東京湾を意識する人たちの裾野を広げていく計画とした。PT の方々をコアメンバーとして広げていきたい。街の人たちの小さな実践活動や参加型の取り組みに関して応援し、束を創っていく。また表彰などや参加証の配布などを実施していく。

ポイントは 2 頁に記載した。諸活動の象徴・統合という意味で、「東京湾の日(仮称) / トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」での参加型の取り組みを創っていきたい。参加型の活動を集めるためのツールとして「東京湾メンバーズカード」などを使っていきたい。江戸前の意識の向上や食、東京オリンピックなど多方面の関わりの中から東京湾を取り上げていく。

例えば、道端のゴミやペットボトルが海に流れ着くことなどを意識し、捨てないようにする。台所の流し口が海につながっていることを意識しながら下水道への負荷を減らす。油をふき取ってから洗う。などを意識していただくことになる。こういったことを組織化するために「準備室」を設置し、メニュー、引き出し方やツールを考えていきたい。具体的には、東京湾のクリーン・アップ(ゴミを拾う)は、参加型活動の第一歩としては、幅広く取り組める感触を持っている。これを3年間で大きな柱にしたい。

これを支えるために、また今までの PT の政策提案の高質な活動をさらに力あるものにするために、「PT 連携」を図っていきたい。これを次の3年間の2番目の目玉にしたい。PT は「政策提案」を作成するのがミッションであり、現在まで4つの政策提案を行った。俯瞰的な視点から、様々な PT 活動に共通な、ひとつの方向性が見いだせるのではないかと思っている。PT 同士でも議論ができ、PT 連携の中から広げていく、連携促進していくことが大事と考えている。3番目の柱、法人化であるが、2年間議論し、結論には至っていないが、ハイブリッドな組織のアイデアなど検討していきたい。以上が大きな柱となる。さらに政策提案への応援、交流会の実施も引き続き行っていく。

平成 31 年度の計画を 7 頁から記載している。大きなくくりでまとめてある。1番目は、情報(提供・仲介)の受発信・交流(広報)活動、メンバーズカードの活用、アンバサダーの対談企画、また、東京湾の窓 PT スタンプラリーの応援などを実施していきたい。スタンプラリーと「東京湾の日(仮称) / トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」の活動を結び付けたいと思っている。また大感謝祭も引き続き応援する。

2番目は、異なる組織間の交流。PT 活動がクロスできる場を作っていく。PT 同士の交流を図ってきたい。また、東京湾のガイド役となる特使を PT メンバーの方々が担っていきながら、内部の人が外部への交流や連携を促す活動を応援していく。外に向けてのツールとなる、「お魚カレンダーの作成」、「東京湾環境マップ」を大事にして広めていきたい。東京湾メンバーズカードを作成検討していく。「CSR-NPO 未来交流会」も引き続き開催していく。今年は7月18日開催予定。「施設見学会」も魅力のある見学場所候補を検討中。11 頁目「他の団体」との交流では新たに環境省の「プラスチック・スマート」キャンペーンの参加協力も含めて繋がりを作ってきたい。

統一テーマでの活動としては、東京湾大感謝祭を引き続き応援し、「東京湾の日(仮称)」を意識して、平成 31 年度東京湾クリーン・アップ大作戦を展開していきたいと思っている。(一財)セブンイレブン記念財団さまの参考資料のご提供などを例にしながら勉強していきたい。さらに政策提案も応援していく。また法人化は引き続き検討していく。

年間を通した活動スケジュールを表にした。予算を記載した。収入についてはこれから(一財)セブンイレブン記念財団さまの評価・査定をいただく予定となっている。支出は事務局経費、事業活動費を実績

を踏まえて計上している。ただし、平成 31 年度は、「東京湾の日(仮称)／トウキョウ.ワン.アンガージュマン(仮称)」といった新たに立ち上げる部分は、従来通りの予算からはみ出るので、何とか別途予算を獲得して実現したいと思っている。

【審議経過】

(議長)

中・長期計画、平成 31 年度の事業計画と予算(案)に対して、ご質問をお願いします。

(工藤委員)

アンガージュマン(仮称)の意味とそれが一般に対して相応しいかどうか。説明をお願いします。

(事務局)

「アンガージュマン(仮称)」はフランス語、英語でいうとエンゲージメント。参加という意味を持つ。横文字カタカナでかっこいいが、相応しいかどうかを含めて、検討が必要と考える。

この言葉、アンガージュマン(仮称)は、「東京湾の日」を定めて終わりではなく、みんなの活動が参加できるある一定の活動期間という意味を込めて考えた次第である。

(古川委員)

(指摘)1頁の 11 行目「湾岸」を「流域」に直すべき。

(意見)中期計画の中の記載で従来から注力している「PT の活動支援」の明記が必要。

(意見)11 頁の新たな他団体との連携箇所は、これからの連携団体を強調して記載しているが、従来からの大切な連携も記載すべき。

(事務局)

ご指摘の箇所はその通りですので、修正する。ご意見についても、PT の意義および他団体連携について、ご指摘の通りなので補正する。

(木賊委員)

メインイベントは東京湾大感謝祭と思うが、「東京湾の日」を作りそこでイベント的なことを実施していくという主旨でよいか。とすると焦点がぼけるような気がする。

(事務局)

主旨はその通りである。大感謝祭は大事なイベントの一つ。それに加えて参加型の小さい行動を束ねる仕組みを作っていきたい。

(議長)

大感謝祭は受け身での参加、たまたま赤レンガ倉庫に来ていた人が参加する。もっと能動的に東京湾に積極的に参加する人を増やし東京湾に対する理解を、両方から推進する活動と理解している。

(古川委員)

日本、世界にも海の日がある。それに対して独立して東京湾の日を考えるべきなのか、大きな海の日に東京湾という意味を付けるのか、独立した東京湾をどこまでこだわるのか。意思統一を図っておいた方が、後々違うということがなくなる。個人的な考えとしては、すでにある海の日に、「東京湾の日(仮称)」を位置づけるのが良いように考える。

(事務局)

フォーラム設立期から議論があったと思うが、東京湾と自分たちとの関係を振り返る日にしたいという主旨での東京湾の日制定だと記憶している。どんな日でも良いが、みんなで東京湾を振り返り、この日に活

動し行動を起こすことが大事と思っている。

(議長)

「日」というと一日に限定されてしまうが、幅のある期間に焦点をあて、東京湾に対して能動的に働きかける活動の裾野を広げる企画がどう立つか、と思っている。

(木村委員)

例えば、海の日の中に東京湾の日を位置づけると東京湾という言葉は消えていくと思う。東京湾を意識するのは、例えば 10 月 1 日(ト一・きょう・ワン)、東京湾語呂合わせのような、そういう話でも意識できればよいと個人的には考える。

(古川委員)

東京湾という言葉をきちんと残す戦略、期間ということであれば、例えば、「国際サンゴ礁年」という「年」がターゲットとなっている、また「海洋調査の10年」が始まる、幅広くとらえた視点も入れ、そういうことも含めて、広く準備室で議論していくということで承認されたらいいか。

(議長)

準備室の活動の中で詰めていく。

(事務局)

平成 31 年度の事業計画で、準備室での議論と併せて東京湾クリーン・アップ大作戦も多くの人が参加できる実践活動として試行していきたい。

(議長)

結論として、準備室を設けそこで具体の実践活動も考えながら、東京湾についての意識の高まりのアピールについても検討していく事とする。

(田久保委員)

予算の所に年会費、収入記載はないのか。平成 30 年度の会計報告はあるのか。

(事務局)

フォーラムは会費を徴収していないので、予算計上していない。平成 30 年度事業報告については、決算書はこれから作成する。今回の配布資料は事前の参考資料である。

(議長)

事業計画と予算は今日の段階で確定させる。本年度の決算と事業報告は、来年度の第 1 回運営会議で確定させる。

(議長)

ご意見ありがとうございます。平成 31 年度から 3 年間にわたる中・長期計画、平成 31 年度事業計画、予算(案)は、承認された。

《報告事項》

(1) フォーラム平成 30 年度事業報告(案)について

【報告】(事務局)資料 2 を用いて説明

おもな事業項目を説明する。詳細は4頁以降となっている。

1 番目は、海水浴PTのご尽力により政策提案ができた。2 番目は、連携強化ができた。フォーラムの外へ向かっての企業、市民連携を進めた (1) (2) (6) がそれにあたる。3 番目は内向きの連携で、PT 長会議、PT 同士の連携、窓PTは施設のネットワーク化に取り組んでいる。(3) (4) (5) がそれにあたる。4 番目、7 番

目は、会議体の報告となる。5番目、8番目 総会、大感謝祭の開催実施。6番目は、法人化の検討。7番目、PTごとの活動、実施記録を掲載している。9番目は、フォーラムの後援支援の状況。10番目、会員の動向と広報です。

特徴的なところをご紹介しますと、①政策提案の取り扱い。総会承認後、海上保安庁 三浦参事官へ政策提案書を来生議長から手渡した。②連携について。CSR-NPO未来交流会を開催し、日立・パナソニックなどからユニークな活動の講演があった。

(議長)

今日配布の報告書(案)はまだ参考資料の段階となる、ご意見があれば事務局までお願いします。

(2) P T 2019 未来クロス会議の実施について

【報告】

(事務局)資料 3 を用いて説明

PT 長に集まっていたいただき情報交換・意見交換を行った。東京湾メンバーズカードの議論があり、カード利用による効果検討の意見があった。PT 同士の議論場の提供、PT 同士の理解促進、活動の市民への紹介など常設的な展示などを実現させたいと思っている。

(3) 平成 30 年度PT活動報告、平成 31 年度PT活動計画 (各PT長)

①東京湾大感謝祭 P T

【報告】(木村PT長)資料 4-1 を用いて説明

報告書はすでに見ていただいているので詳細は割愛する。10万5000人の参加があった。今回は環境省のクールチョイスのイベント中で行われてきた映像がDVDにまとめられ自治体に配布される。

東京湾大感謝祭は、今年10月第3、4週開催予定で、ますます参加促進の協力をお願いしたい。

②東京湾環境モニタリング推進 PT

【報告】(古川 PT 長)資料 4-2、東京湾環境マップを用いて説明

今年度の東京湾環境マップの作成ではアクセス PT の協力を得ている。貧酸素水塊もまだ発生している意味を込め、東京湾の図をなるべく大きくした。

来年度も一斉調査を 8 月 10 日～24 日に実施することで再生推進会議で検討されている。

③生きもの生息場つくりPT

【報告】(佐々木PT長)資料 4-3 を用いて説明

マコガレイの産卵場の具体的な検討をしている。昨年 11 月 25 日に茜浜で産卵場調査を実施した。また、つり人の調査データを頂いた。三番瀬で浚渫工事が行われる予定で、そこから発生する質の良い砂を活用し、産卵場の具体化を図る。来年度の活動計画は、東京湾の再生理念をまとめる予定。持続可能な生息場の政策提案の議論検討を行っていく。

④指標活用PT

【報告】(岡田PT長)資料 4-4 を用いて説明

市民データ WG、データ整理・評価 WG に分かれ具体的な作業を行なっている。市民データ WG は、今年度も経団連、漁協等の協力を経てアンケート形式による情報収集を実施した。その結果を大感謝祭での展示、フォーラム HP への掲載をおこなった。平成 31 年度も同様にデータ収集予定。

データ整理・評価 WG は、平成 31 年度に「東京湾再生行動計画(第二期)」第 2 回中間評価報告もあり、透明度、COD、ふん便性汚染などデータの収集・整理方法を見直し中で、来年度はデータの整理方法の見直し提案を行い再生推進会議と共同して第 2 回中間評価報告書の作成を進める予定。

⑤江戸前ブランド育成PT

【報告】(富樫代理)資料 4-5 を用いて説明

できるところから始めている。東京湾大感謝祭での情報発信を中心に活動している。

来年度も同様に行う予定。

⑥東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT

【報告】(竹口PT長)資料4-6 を用いて説明

平成 30 年度は、沿岸部の活用、船舶利用の検討を行った。平成 31 年度は最終政策提案を行う予定で、文案をメンバーに提示調整している。最終意見調整を行い、4 月半ばには事務局と調整し、みなさまの了解が頂ければ、来年度中に政策提案する予定。

⑦東京湾での海水浴復活の方策検討 PT

【報告】(田中代理)資料4-7を用いて説明

今年度は政策提案を行ったがまだレスポンスがない。これで終わるのではなく、周知の状況など現状把握を行い、その対応を来年度は行う予定。

⑧東京湾の窓PT

【報告】(芝原PT長) 資料4-8-1,2,3 を用いて説明

今年度は、スタンプラリーの実施、大感謝祭での展示を行い、政策提案の検討に入っている。

スタンプラリーは助成金が取れず、自前作業となり大変だった。平成 31 年度の実施に際しては、フォーラム事務局のサポートを受けることやスタンプラリー期間の延長などの検討を行っている。さらに政策提案の検討を行っている最中で、施設を通して市民と東京湾の結び付きを強調していく予定。

⑨東京湾浅瀬再生実験 P T

【報告】鈴木PT長

次回 説明予定。

5-3 閉会

委員長が閉会を宣言

以上